



各1部ずつに、双方の町長が署名し、日南町とゾーンモド町との友好交流協定が締結されました。モンゴル式で締結のお祝いをし、記念撮影、記念品の交換をして式は閉会しました。式後、ゾーンモド町長に話を聞くと、町長となる前に鳥取県を訪ねたことがあり、町長に就任してから鳥取県内の自治体と友好を結びたいと願っていた。ゾーンモド町でも失業者が多く、日南

町へ人材として受け入れなどの人的交流を積極的に行いたいと話されました。昼食会がゾーンモド町のゲルホテルで開催され、羊の塩茹でなどモンゴルの伝統料理をいただきながら、それぞれの議会制度や子育て支援政策などについて、今後の交流に向けての意見交換などが行われました。

ゾーンモド町での調印式を終えた一行は、ウランバートル市内に戻り、この日最後に日本大使館を訪ねました。参事官と面会をし、友好協定を結んだことの報告等を行いました。参事官からは、モンゴルでの農業や介護分野の需要が、今後高まると言われているので日南町の取り組みは、先取りした考えだと思ふ。その分、まだ一般社会に考えが浸透していない部分があるので、実習生の送り出し機関が大変重要になるなどと話されました。

【フムーン総合学校で歓待を受ける】

3日目は再度、ゾーンモド町を訪れ、日本語教室のあるフムーン総合学校を視察しました。小学生の出迎えを受け、校長先生から歓迎のあいさつを頂きました。生徒によるさまざまな発表もあり、小学4年生によるダンスや、日本語教室の生徒による馬頭琴の演奏、日本語スピーチコンテストで3位になった生徒のスピーチなどを見学しました。

増原町長のあいさつのあと、日本語教室の生徒と日本のお菓子を景品に、日



本語でビンゴ大会を行い、生徒たちに喜んでいただきました。

学校訪問を終えると、一行はゾーンモド町長の案内で、遊牧民のゲルを訪問。遊牧民の暮らしについて聞いたたり、見渡す限りの草原を目に焼き付けたりました。また、干し肉を使ったモンゴル風のうどんを振舞っていたいただきました。

続いてゾーンモド町内にある、チベット仏教寺院群の廃墟マンジュシリヒードも見学しました。

ゾーンモド町長と別れ、一行はウランバートルへと戻り、送り出し機関で、日本語の勉強などを行っている生徒と意見交換を行いました。生徒からは賃金や受け入れ態勢などに積極的に質問があり、日本で働きたい意欲がとても強く感じられました。



【外国人人材の可能性を探って】

増原町長以下9名は翌日帰国。役場職員2名は現地に残り2日間、追加調査を行いました。具体的には、日本語学校の訪問。ソーシャルワーカーの育成をしている大学に行き、学長と意見交換。教育大学に付属している職業訓練校の介護コースも見学しました。ここでは、実際に日本への技能実習生の送り出しが決まっているそうです。最後に大工の職業訓練校を訪問し、すべての視察日程を終了し、翌日帰国しました。

今回、ゾーンモド町と友好協定を結び、交流への第一歩を踏み出しました。今後、ゾーンモド町との交流が、日南町の助けになるよう期待します。

